

# 香川県地震・津波被害想定検討委員会（第5回）

## 議事録

日 時：令和7年9月2日(月) 14:00～15:15

場 所：あなぶきアリーナ香川 会議室2

出席者：金田委員長、長谷川委員、野々村委員、今井委員、高橋委員、馬場委員(web)、事務局

### ○開会

石川総局長挨拶、金田委員長挨拶

### ○会議の公開・非公開の決定

金田委員長

本日の議事内容について、特段非公開とすべき理由はないが公開としてよろしいか。

各委員

異議なし

## 3. 議事

### (1) 香川県地震・津波被害想定（第二次公表）の概要について

委員

L1に対して、これまでのハード対策の効果が出たということを確認できてよかった。ただし、水門・陸閘を閉じたというシミュレーションであるため、実際それが徹底されないと漏れが生じるということも注意すべきであると思う。そのため、この対策効果を発揮するためには、県民の方、利用者の協力が必要だということ、伝える必要がある。また、対策効果が出て、ここに住んでいる住民が「もう大丈夫だ」と思い、全く避難しないことも困るため、万が一のことも考えて避難すべきであるという周知が必要であると思う。

委員

対策の効果が出て安心した。一方、L2では、1週間後の避難所外の避難者が146%増になった。令和6年能登半島地震では、自宅に住みたくても住めずに避難所外へ避難し、自宅のライフラインが復旧しなかったことから、長期間自宅に戻れないという例があった。対策の効果が出て安心という面もあるが、避難者数の増加等の問題点も指摘されていることから、今後どういう対策をしなければいけないのかについて、第二次公表で、被害量が定量化され、数字として見えたところは、課題がわかったという点で良いと思った。

委員

地盤モデルの更新や災害関連死の新規追加により、現実的な被害に近づき、精緻な被害想定となったと考える。特に、津波については、対策効果により被害量が減少できたことが

可視化され、すごく分かりやすかった。一方、残された場所については、今後対策を講じていただければと思う。

#### 委員

前回調査と比較すると、今回の被害量は減っていないという印象を最初受けたが、減災効果について説明いただき、効果がきちんと出ていることが示されていて良かった。

地震動の震度階級が少し大きくなったのは、断層の想定が変わったことが反映されたことによるものだと思う。断層については、現時点で分かっていないことがたくさんあるため、結果にばらつきがあるものとして考えるべきである。そのため、被害量の細かい数字を一喜一憂するのではなく、県の方で情報を正確に伝える必要がある。

また、それぞれの地区の脆弱性が見えたと思うので、例えば、家具を固定するとか、そういうところを徹底してもらうような広報活動をしたらよいと思う。

#### 委員

精緻なモデリング、被害想定を行ったうえで、対策効果が分かりやすく示されており、大変良い資料であると考えている。今後の課題という観点では、初期潮位が10cm程度上昇しただけで浸水範囲がかなり違うことは、個人的に驚いている。地球温暖化による海面上昇の影響が、津波ハザードや高潮等に非常に大きな影響を与え得ることが示されていると思う。今後も海面上昇が続いていくと想定されるため、海面上昇がどのように進んでいくかということ踏まえながら、対策を進めていく必要があると思う。

#### 委員

香川県は四国の他県に比べると、津波の高さが大きく違っており、cm単位の議論がどうしても出てしまうため、初期潮位の与え方が大きな影響を受けると思う。いつ南海トラフ地震が発生するかは不明だが、5年、10年、20年といった少し長い時間のスケールで、初期潮位がどのくらい変化するかを検討したうえで、ハード対策を進めていかなければならないとともに、やはり早期避難の意識を高めることが重要であると思う。

## (2) 被害シナリオ(L2)について

#### 委員

非常に詳細な被害シナリオであるが、県民の皆様を理解していただくとなると距離があると感じた。香川県としての全体的な特徴を県民にお知らせするような資料があればよいと思う。個人的には、沿岸部、内陸部で津波が来ない地域、山間部ごとの地域別のシナリオがあると良いのではと思う。例えば、香川県は地盤の観点では、沿岸部で液状化の危険度がかかなり広がっており、それが弱みである。一方、瀬戸内海に面しているから津波の到達時間が遅いという利点もある。これらをどう理解して沿岸部から避難するかを考えると、例えば、液状化によって橋と道路との間に段差ができると橋を横断するような車の行き来ができなくなるため、車で避難する場合は、橋を利用しないことを呼びかけるというような県民向けのシナリオの作成を検討いただければと思う。

#### 委員

先ほどの概要版資料だと、県民の皆様の早期避難の努力次第で被害が小さくなることがわかったが、被害シナリオを見ると、地震発生直後の様子が詳細に記載されており、避難について、いろいろと考えないといけないということがわかった。被害シナリオは、具体的に非常に網羅的に記載されており、地域や生活スタイルによって、自分がどのシナリオに当てはまるかをじっくり読んでいただき、すぐに対応しなくてはいけないことがどれかということを考えてもらうのが良いかと思う。また、地域の防災の取り組み等においても、この被害シナリオをもとに議論がしやすいのではと思う。

#### 委員

被害シナリオや報告書を用いて地域防災計画に活かしていくことになると思うが、かなり精緻に記載されており、各地域に活かせるような情報がたくさん網羅されているため、これらをどうその地域に落とし込むかという方法論を少し添えていただくと良いのではと思う。

#### 事務局

公表した資料に基づき、香川県の地域防災計画の改定作業を進め、今年度末を目途にこの内容を反映したいと考えている。

各市町においても、県が定めた地域防災計画を踏まえ、地域ごとの特徴を生かした市町の地域防災計画に反映すると考えている。また、市町では普段各ご家庭で見えていただくようなハザードマップも今後整備していくものと思われるため、引き続き工夫を凝らし、わかりやすい資料作りに努める。

#### 委員

非常に精緻で細かいシナリオとなっていると思う。今井委員のご指摘のように、これをどう使っていくかを考えると、県内だけではなく、県の外部との連携が必要であり、市町だけではなく、インフラの民間企業との連携が必要になることが多々出てくると思う。今年度内に地域防災計画をまとめる話があったが、民間企業も巻き込んだ形で地域防災計画を作成されたら良いなと思った。

#### 事務局

民間企業がそれぞれの地域に果たす防災上の役割は非常の大きなものと捉えており、地域の自主防災組織と企業を結ぶ取り組みを県としても推進しているところである。民間企業も自らの企業の継続計画、地域への貢献ということで様々な取り組みを考えていただいている状況であり、引き続きこういう取り組みを支援していきたいと考えている。

#### 委員

被害シナリオは大変精緻であり、これを読み込むことで、どういう状況になるかがよくわかるといった。今度はこの中から各住民一人一人が必要な情報をピックアップして、資料をまとめられるとより良いと思う。

個人的には、例えば、罹災証明の手続きや、仮設住宅への入居や行政の支援についてどの

ようなものがあるか等、住民の方の被災後のアクションアイテムの整理ができると、住民も安心もすると思うので、そういう資料の作成も、今後検討いただけるとよいかと思う。

#### 委員

非常に精緻な、そしてかなり整理された資料として理解しているが、これをそのまま全部県民の皆様が理解することは、なかなか難しいというのは十分わかっている。長谷川委員のコメントのように、もう一段わかりやすいような説明の仕方も含め、検討いただきたいと思う。これにより、県民の皆様は自分事、私事としていろんなことが捉えられ、自分事だけではなく、地域のコミュニティとしてどう考えるかについても重要なポイントだと思うので、これらをいろんなレイヤーで考える必要があると思う。それらを今度、縦につながることが必要であり、そういうところをやっていただくための基礎資料であると理解いただければと思う。

### (3) 各委員からのコメント

#### 委員

自分事として受け止めるということで、私が南海トラフ地震で被災を受けたときどうなるかなど、この資料を読みながら思ったことは、避難所には入れないと思った。恐らく自宅などで避難をすることが強いられ、その際は、電気は止まり、上下水道は使えず、通信も繋がらないという状況が想定され、そのなかで一番何が気になるかということとトイレが使用できるかということであり、トイレの対策を最優先に行わないといけないなと思った。

#### 委員

今回の被害想定から、災害関連死の数字が出てきており、やはり守った命をつなぐ努力をしなければ、これくらいの被害が出るということがわかった。この結果を重く受け止めて、地域の皆様と一緒に対策することが重要だと思うので、このことについても考えていきたいと思った。

#### 委員

今回の被害想定で、対策の効果が見えるようになったことは、とても重要だと思う。それは、ハード面もあり、意識のところでも、これくらい意識が変われば人的被害が減らせるという結果を定量的に見せたということは、これを受け取る住民の方々にとって、頑張ればできるというひとつのよりどころになる可能性がすごく高い。そのため、そういった見せ方をうまく工夫することはすごく重要であり、それがすごく効果的につくられている被害想定だと思った。

#### 委員

対策のところ、個人向けに書かれている部分と組織向けに書かれている部分と行政向けに書かれている部分と、いろんな部分があると思う。それを見ると、やはり項目ごとに、何かの情報が必要であると思う。香川県下でどんなことが起きているかを、防災に関係する組織が一元的に情報をきちんと把握できるという環境があると、ここでまとめている

だいたことが、より効果的になるのかなと思った。

委員

個人的には、こちらの被害想定は非常によくまとまっており、そして、見せ方が上手な被害想定になったと思う。私は、いくつかの県の被害想定に関わらせていただいているが、やはり、その地域によってハザードがだいぶ違っており、被害も場所による違いがだいぶあるのかなと思った。内閣府の被害想定だと、画一的な内容になるが、こういう地域ごとの被害想定はやはり大事であるなと思った。

委員

私も委員の皆様と同じように、わかりやすさと非常に詳細だということが、逆に一般の県民の皆様には少し難しい部分があるため、そこをうまく地域とつなげるような仕組みができると、よりいいのかなと思う。見える化として図表も準備していただいたが、それに加えて、今後もこれらの努力もしていただくと、よりわかりやすいということになると思った。

全体として、昨年から、複数回いろんな委員会を開き、事務局の皆さんの努力、そして、委員の皆様のような貴重なコメントを踏まえ、ここまでの資料ができたのかなと考えており、委員長として皆様に感謝したいと思う。

先ほど申し上げたが、これで終わりではなく、これがスタートということであり、これを踏まえ、いかに対策を進めて被害を軽減するか、そして、市民の皆様の意識を高めながら、その被害軽減への取り組みをさらに推進していく必要があるのかなと思った。

委員

7月1日了承の第一公表と本日は承いただいた第二次公表の内容を、香川県地震・津波被害想定調査報告案として、修正がないという前提で成案とさせていただきたいと思うが、よろしいか。

各委員

異議なし

#### 4. 閉会